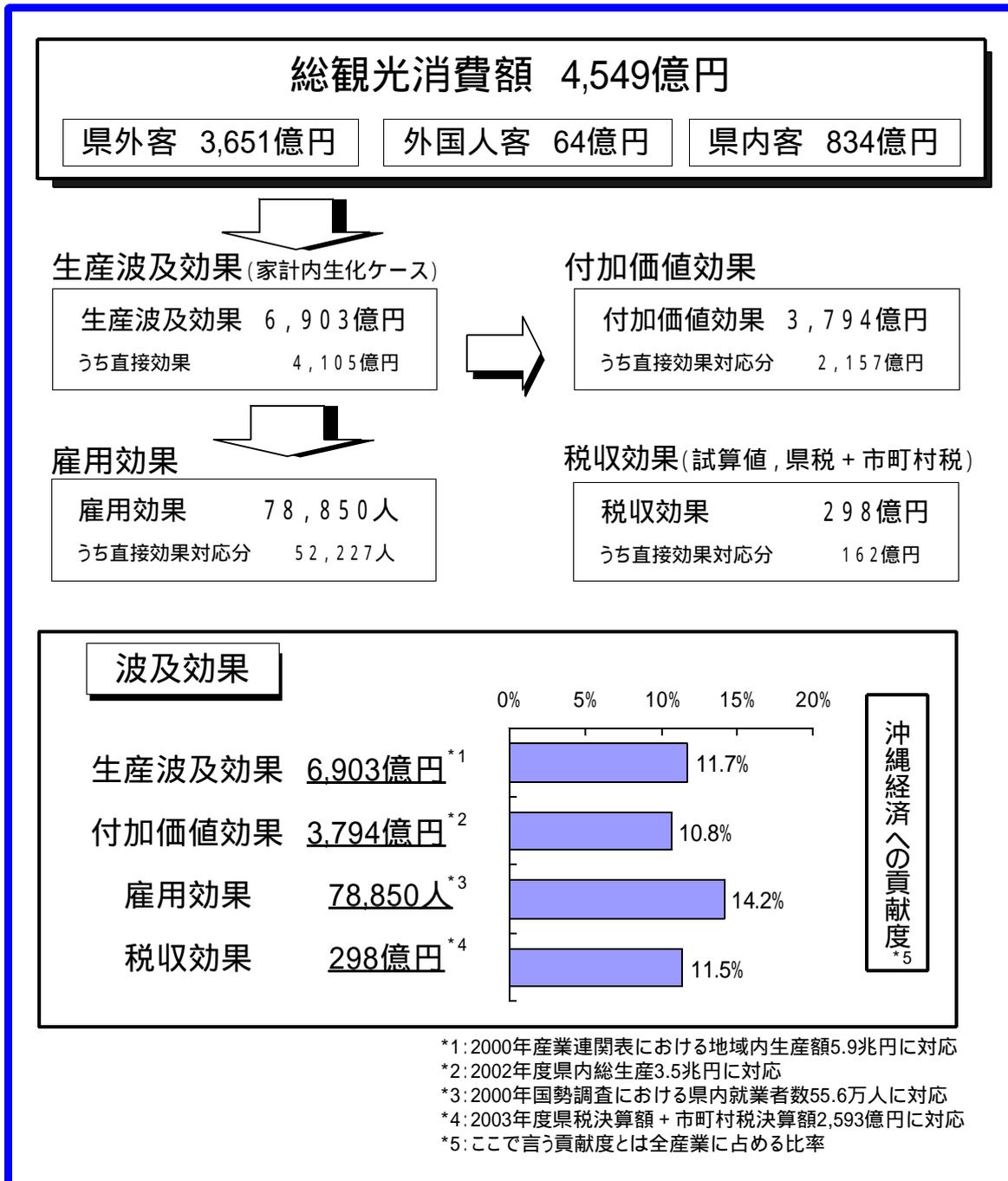


経済波及効果（平成16年度）

平成16年における県外からの入域観光客数は515万人、県民の県内旅行客数は640万人で、沖縄県内での旅行消費額は4,549億円と推計される。このうち県外観光客は3,651億円で全体の約8割を占める。

旅行消費による経済波及効果（生産波及効果）は、6,903億円となり、沖縄経済の11.7%に相当する。また、雇用波及効果は78,850人に及び、本県全体の14.2%に相当する。



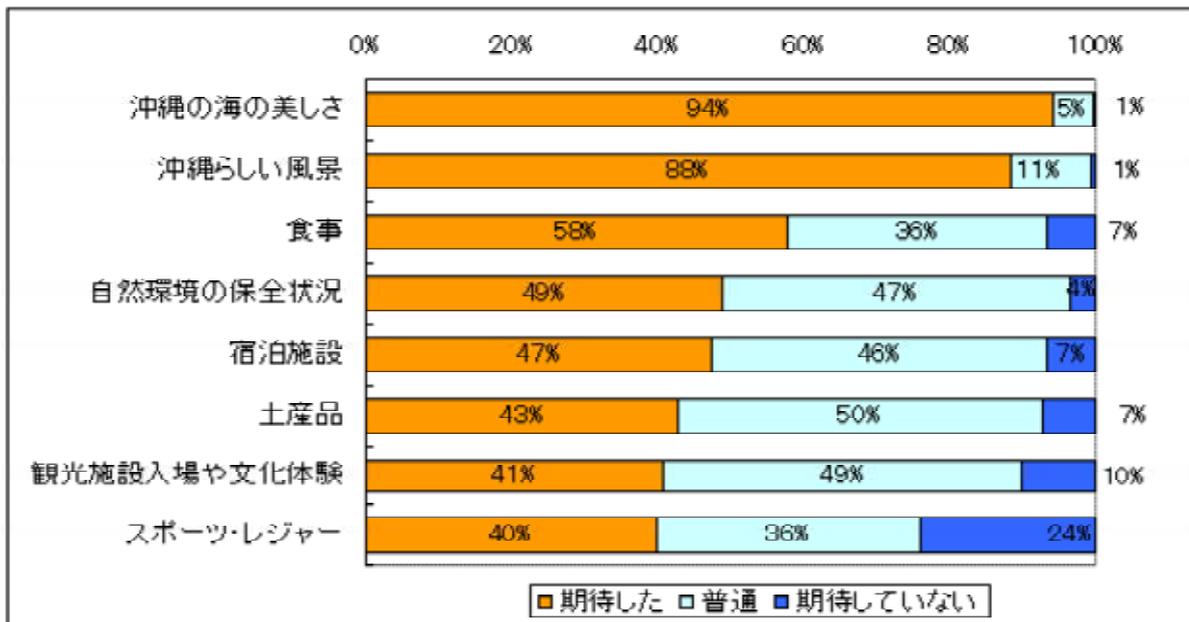
資料：平成16年度観光統計実態調査「沖縄県における旅行・観光の経済波及効果」

3 沖縄観光客満足度調査

ア 旅行前の期待度

「沖縄の海の美しさ」、「沖縄らしい風景」で、特に“期待した”比率が高く、約9割となっている。重要な観光資源であることがわかる。これに比べ観光メニュー関係（土産品、観光施設、スポーツ・レジャー）は相対的に“期待した”比率は低くなっている。「食事」、「宿泊施設」は比較的高い比率となっている。

また、「自然環境の保全状況」に関する期待度は、5割程度であり、低くなっている。

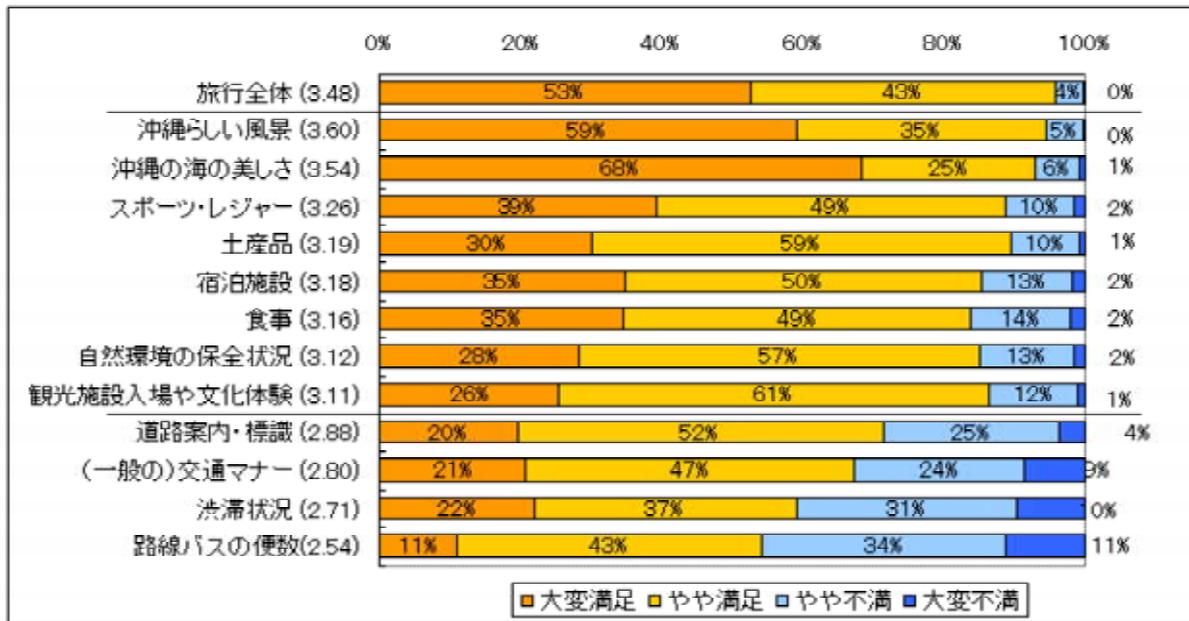


資料：平成18年度沖縄観光客満足度調査

イ 旅行の満足度

「沖縄らしい風景」、「沖縄の海の美しさ」という沖縄の観光資源に対しては、「旅行全体」よりも高い満足度の点数となっている一方で、「自然環境の保全状況」は、相対的に点数が低い。また、「観光施設入場や文化体験」、「食事」、「宿泊施設」、「土産品」などの観光メニューにおいても相対的に点数が低くなっている。

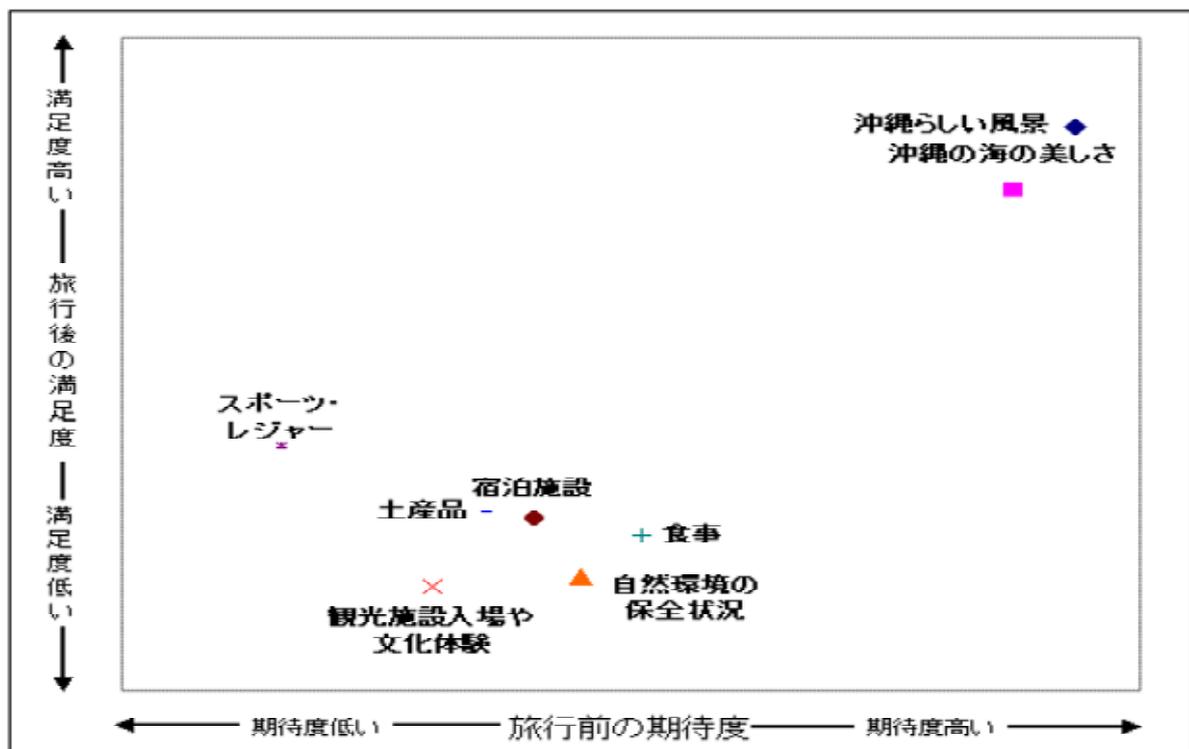
交通関係については、特に点数が低くなっており、「路線バスの便数」、「渋滞状況」などは、約4割が不満を感じている状況である。



資料：平成18年度沖縄観光客満足度調査

ウ 期待度と満足度

「沖縄の海の美しさ」、「沖縄らしい風景」は、期待度、満足度ともに高いが、「食事」や「自然環境の保全状況」は、期待度と満足度のギャップが他に比べ大きくなっている。



資料：平成18年度沖縄観光客満足度調査

4 観光振興指標の実績

成果指標	単位	平成13年 (基準)	平成16年		平成19年	
			目標	実績	目標	実績・見込み
入域観光客数 (うち外国人観光客数)	万人	443 (20)	510 (23)	515 (13)	580 (25)	587 (17) 見込み値
観光客一人当たり県内消費額	千円	76	94	70	80	74 1月～9月
観光収入 (名目値)	億円	3,390	4,800	3,632	4,800	4,329 見込み値
平均滞在日数	日	3.66	3.73	3.72	4.10	3.71 1月～9月
コンベンション開催 件数 (うち国際会議等)	件/ 年度	587 (32)	610 (40)	649 (35)	730 (45)	591 (15) 4月～11月
コンベンション県外 ・海外参加者数 (うち国際会議等)	人	48,721 (9,313)	-	55,473 (13,274)	63,000 (11,000)	47,686 (3,885) 4月～11月
スポーツキャンプ・ 合宿数 (参加者人数)	件/ 年度 (人)	196 (6,820)	220	192 (5,221)	220 (7,300)	279 (4,765) 平成18年
宿泊施設客室数 (収容人員)	室 (人)	23,781 (60,078) (平成12年)	26,500	28,303 (71,062)	31,200 (81,100)	32,320 (80,746) 平成18年
観光情報アクセス件 数(OCVB真南風プ ラス)	万件 /月	3.0	5.0	13.0	18.0	38.5 確定値
クルーズ船の寄港回 数(うち定期船)	回	85 (63)	90	82 (69)	90 (75)	58 (42) 確定値
リゾートウエディン グ実施組数	組	1,100	-	3,500	7,500	7,000 見込み値

(1) 入域観光客数（外国人観光客数）

平成19年の入域観光客数は 万人となり、計画目標の580万人を上回り、過去最高の記録となった。

そのうち、海外から国内を経由せず直接沖縄入りした外国人観光客数は 万人で、目標の25万人を下回ったものの、平成18年の落ち込みから大きく回復した。

国内観光客については、沖縄への関心や人気が続いていることを背景に、新規航空路線の開設や増便による航空輸送能力の増加、宿泊施設の増加・質の向上、魅力のある観光施設の設置、官民あがての誘客キャンペーンの展開などにより計画目標を達成した。

外国人観光客については、ビジットジャパンキャンペーンと連携した、台湾・韓国・中国・香港を重点地域とする誘客・宣伝活動を積極的に展開した結果、定期クルーズ船の復活や香港・台湾、韓国等からのチャーター便の増加などにより、概ね好調に推移している。

国別では、台湾については、定期クルーズ船の運航再開や航空会社とタイアップした誘客キャンペーンの展開により、平成18年の落ち込みから順調に回復している。韓国については、平成18年に初めて入域観光客数1万人を突破し、冬場の誘客に強みを見せるなど、さらなる伸びが期待される。香港については、戦略的な誘致活動の結果、多数のチャーター便が就航するなど、定期便の復活に向けて大きく前進した。中国については、トップセールスの展開などにより、着実に成果を上げつつある。

(2) 観光客一人当たり県内消費額

平成18年の観光客一人当たり県内消費額は7万3千円となっている。回復基調にはあるものの、依然、伸び悩んでいる状況にあり、また、平成19年（1月～9月）については、速報値ベースで前年同期比でやや下回る水準で推移している。計画目標の8万円を下回る見込みである。

沖縄型特定免税店空港外店舗の開店などによるリゾートショッピングの進展、また、食への関心の高まりにより、土産費や飲食費は増加傾向にあるものの、宿泊費については、宿泊特化型宿泊施設の増加、滞在日数の伸び悩みなどにより、減少傾向にある。全国的な旅行商品の低価格化が定着していること、個人消費の低迷、観光地間の競争の激化等が、観光客一人当たり県内消費額が回復基調にはあるものの、伸び悩んでいる状況の要因であると思われる。

なお、県においては、より、観光客一人当たり県内消費額の推計精度を上げる

ために、平成12年度と平成14年度に推計手法等を変更し、また、平成17年度には、その変更により失われた連続性を回復するために平成13年度以前の観光客一人当たり県内消費額の見直しを行っている。

(3) 観光収入（名目値）

観光客一人当たり県内消費額は、依然、低位にあるものの、順調な観光客数の伸びに支えられ、平成18年の観光収入は、初めて、4千億円を突破した。平成19年（見込み値）の観光収入についても、観光収入は増加する見込みであるが、計画目標の4,800億円は下回る見込みである。

なお、観光収入についても、(2)観光客一人当たり県内消費額と同様に遡及修正を行っている。

(4) 平均滞在日数

平成18年度の観光客の平均滞在日数は、3.80日であった。体験滞在型観光の取り組みが各地で進んでいること、また、リピーター率の増加等を背景に離島人気が高まっているが、平均滞在日数は横ばいの状況である。

平成19年（1月～9月）の平均滞在日数についても、速報値ベースで前年同期比でやや下回る水準で推移しており、計画目標の4.10日を下回る見込みである。

(5) コンベンション開催件数

コンベンションの開催件数は、2000年の九州・沖縄サミット開催によりコンベンション開催地としての本県の魅力が広く知られたことや国及び関係団体等と連携した誘致活動の成果により年々増加傾向にあり、平成18年度は704件であったが、平成19年度は低調で、計画目標の730件を下回る見込みである。

国際会議については、国際会議等各種会議の沖縄開催の推進に係る各省庁連絡会議と連携するなど、誘致活動を展開したものの、国の関与する国際会議の減少及び海外へのPR不足等から目標値45件の達成は厳しい状況にある。

(6) コンベンション県外・海外参加者数

コンベンション県外・海外参加者数は、平成18年度には「世界のウチナーンチュ大会」等が開催され、約7万3千人と目標を超えたが、平成19年度は、コンベンション開催件数が低調なこと及び大規模会議の開催が少ないことから、目標を下回る見込みである。

(7) スポーツキャンプ・合宿数

スポーツキャンプ・合宿数は、平成14年度以降、市町村が積極的に誘致活動を行ったことやPR効果の高いプロ野球春季キャンプが2チーム増えたことによる波及効果などにより予測を上回るペースで増え、平成18年度は目標の220件を上回る279件に達した。

平成19年度もスポーツキャンプ・合宿数は順調に推移すると思われることから、目標を達成する見込みである。

(8) 宿泊施設客室数

宿泊施設については、入域観光客数の増加を背景に、ホテルの新規開設等が相次いだため客室数が大きく増加し、平成18年10月1日時点で計画目標の31,200室を上回る32,320室となった。

収容人員についても、平成18年10月1日時点で計画目標の81,100人をほぼ達成し、80,746人となった。

(9) 観光情報アクセス件数

沖縄観光コンベンションビューローのホームページ「真南風プラス」への情報アクセス件数(訪問者数)は、全国的なインターネットの普及や沖縄人気の拡大、本県への入域観光客数の増加及び「沖縄観光共通プラットフォーム構築事業(平成15、16年度)」の実施による情報内容の拡充や外国語による情報発信等の機能向上を図ったことなどにより大幅に増加している。

平成19年の月平均アクセス数は38万5千件に達し、計画目標の月平均18万件を大きく上回った。

(10) クルーズ船の寄港回数

クルーズ船の本県への寄港については、昨年4月から運休していた定期船の運航が再開し、これまで就航していた「スーパースタージェミニ」(19,093 t、716名乗り)の2倍の収容能力をもつ「スーパースターリブラ」(42,000 t、1,480名乗り)が運航することになった。

定期船は7月~11月にかけて計42回寄港しているほか、欧米国籍の大型不定期船も就航し、計58回延べ3万人余が沖縄を訪れている。